

校長室の小窓から・・・

—No.2— 令和7年4月17日(木) 金光八尾中学校高等学校 校長 松井 祥一

一挨拶 ～互いに心を開く言葉～

昔は時折、山登りに出かけたものでした。登山というほどのものではありませんが、それでも森林浴をしながら軽く汗を流すと、心と身体がリフレッシュできます。山道ですれ違ふと互いに挨拶をします。全く知らない人ですが、「おはようございます」「こんにちは」と挨拶を交わすのは登山のマナーです。万が一遭難など事故が起きたときも、互いに顔を覚えているかもしれないという、安全のためだと聞きました。それ以上に、挨拶は、相手を認める第一歩だと思うのです。



毎朝、玉串川沿いに立って挨拶をしています。「おはようございます」と挨拶する生徒。静かにお辞儀をする生徒。チラッと私を見て通り過ぎる生徒。それぞれ3分の1くらいでしょうか。通り過ぎる近隣の方々に、私が「おはようございます」とご挨拶申し上げると、「おはようございます」と返して下さる方が多くいらっしゃいます。中には手を振ってくれる幼稚園児もいます。心が癒されます。

「若い世代に広まる挨拶不要論」という記事がありました。親しい間柄でもないのに、なぜ頭を下げたり、わざわざ自分からコミュニケーションを図ったりしなければいけないのか納得がいかないのだそうです。SNSで誰とでも気軽にやりとりができるようになり、挨拶の必要性を感じていないのだそうです。そして人と人との関わる機会が減ったコロナ禍で、その傾向は加速したということです。とても残念なことです。



「挨拶」の「挨」は「押す」「近づく」、「拶」は「迫る」「押し寄せる」という意味があります。どちらの漢字も相手の気持ちを慮る（おもんばかり）、推し量るということです。もともと仏教用語で『一挨一拶（いちあいいつさつ）』という言葉があり、師匠と弟子が押し問答から悟りを深めるというもので、「挨拶」の語源となっているようです。

朝の訪れが楽しみになってきました。